



## 「蛙の合唱」

園長 山中文

暑い日が続くようになりました。まだまだ雨も多く、幼稚園の各室から、「蛙の合唱」を元気に歌う姿が聞こえてきたりしています。今朝は、傘と長靴姿で、“かえるのうたが~♪”とうたいながら登園する姿を目にしました。

この歌は、よく「蛙のうた」と呼ばれ、海外では日本の歌と紹介されたりもしますが、実際はドイツの Froshgesang という歌に、岡本敏明氏が「蛙の合唱」という曲名で日本語の詞をつけたものです。岡本氏はなぜ、曲名を「うた」ではなく「合唱」としたのでしょうか？

「蛙の合唱」は、輪唱（カノン）になっています。誰かが“かえるのうたが~♪”と歌って次のフレーズにうつったとき、別の誰かが“かえるのうたが~♪”と歌いはじめ、さらにその後に誰かが“かえるのうたが~♪”と続ける…というように、ずらして追いかけて歌っても、きれいにハーモニーになるように作られた歌です。こうやって輪唱で歌うと、3番目の誰かが歌いはじめるころには1番目の人が“ケロッケロッケロッケロッキ”を歌っており、4番目の誰かが歌いはじめるころには、1番目の人は“ケケケケケケケクワックワックァッ”、2番目の人が“ケロッケロッケロッケロッキ”と歌っています。ちょうどたくさん蛙が歌っているように聞こえますから、「合唱」としたのかもしれないね。

輪唱は、年少期にはまだうまくできません。音楽にあわせて手拍子をするような、二つの異なる行動を一つにまとめることがちょうど確立していく頃ですから、さらに他の旋律を聴きながらずらして歌うというところまで行動をまとめることができるのはもう少し先です。でも、完全にできることは求めず、ちょっとチャレンジして、うまくできずに「あれ〜?!」となるのもいい体験です。できなくても、「ずらして歌う」という体験が記憶として残ることも多いからです。子どもたちと「みんな（ずれずに）同じところを歌っちゃったねえ」と笑いあって数日後、大人の輪唱を聴いて、「この人たちも追いかけてこしてるよ」とみつけた子どもがちゃあんといました。歌の面白いところを自分たちでみつめていけるとは、なかなか素敵なことです。

ところで、「蛙の合唱」の元歌である Froshgesang は、次のような歌詞です。

Ganze Sommer nächte lang (ガンツェゾムメルネヒテランク・)

hören werden Froshgesang (ヘーレンヴィルデンフロッシュゲザンク・)

quak quak quak quak

kä kä kä kä kä kä kä kä quak quak quak

括弧内のカタカナの太字部分を音符に当てはめ、「・」で休みを取って歌うと、ちょうど旋律と合います。ドイツ語で歌うと、言葉の強アクセントが生かされます。日本語だと“かえるのうたが~♪”とややのんびりした蛙らしくなるところが、“ガンツェゾムメルネヒテランク・♪”と歌うと、なかなか勇ましく行進でもしそうな蛙に変身します。ことばが違っているとイメージが変わるということを知るのもいい経験です。お家で、大人の方がドイツ語で輪唱して聴かせると、きっと子どもたちから拍手喝采ですよ！

この歌は、ドイツでは実はあまり知られていません。ドイツの蛙たちにはちょっぴり残念ですね！

